

## 第3回浜松市ユニバーサルデザイン審議会会議録

日 時：令和3年10月19日（火） 午前10時～11時30分

会 場：浜松市役所本館8階 第4委員会室

出席委員：宮田圭介会長、松井章子副会長、飯野ホラン委員、石塚良明委員、  
倉橋千弘委員、田中佐和子委員、村松千香子委員、諸井宏司委員、  
横田みどり委員、吉林久委員

事務局：奥家章夫市民部長、新谷直幸UD・男女共同参画課長、河合多恵子  
課長補佐、森下昌和UD推進グループ長、鈴木政彰、刑部勇人

傍聴者：2名 ※報道関係者1名

会議録作成者：UD・男女共同参画課 鈴木

記録方法：発言者の要点記録（録音の有無：有）

---

### 《会議次第》

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

（1）第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画（素案）について

4 その他

5 閉 会

---

### 《配付資料》

- ・資料 1：UD計画中間案意見整理表
- ・資料 2：第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画 冊子（案）
- ・資料 3：U・ゆうプランⅢ 第1期推進計画（案）

---

### 《会議の経過》

1 開会

（事務局）

令和3年度第3回浜松市ユニバーサルデザイン審議会を開催する。

当審議会は、浜松市ユニバーサルデザイン条例第18条に基づき、浜松市のユニバーサルデザインの推進に関する調査、協議及び評価をする組織として設置されているものである。

2 宮田会長挨拶

### 3 議事

#### (事務局)

当審議会は、「浜松市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき公開会議とする。また、会議録は事務局で作成し、「浜松市附属機関等の会議録の作成及び公開に関する要綱」に基づき、発言した委員の名前を記載の上、公開することとする。

議事の進行については、浜松市ユニバーサルデザイン審議会運営要綱第4条規定により議長は会長が務めるとされているため会長に願する。

#### (宮田会長)

本日の議事は1件で、第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画（素案）について諮る。

#### (1) 第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画（素案）について

事務局より

(資料1) UD計画中間案意見整理表

(資料2) 第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画 冊子（案）

(資料3) U・ゆうプランⅢ 第1期推進計画（案） について説明

#### (宮田会長)

質問や意見があればお願いしたい。

私から、資料2のP.6の計画の指標で「事業所を営む上でUDを取り入れている事業所の割合」が、他の割合に比べて22.7%というのは非常に低く見える。事業所では、UDというと多文化共生や身障者というバイアスをかけて見ているのではないか。実態としては就労しやすい環境を工夫されているはずだと思うが、それが反映されてない気がする。

#### (事務局)

実際、事業所では、もう少しUDを取り入れていることがあると思う。会長ご指摘の通り、それがUDだと気づいてないということがあるかと思う。これもUDであると知れば、もう少し数字は上がってくることになる。今回の計画の中で、特に、事業所・企業のUDをどのような方法で高めていくかは、大きな課題として感じている。今後5年間の推進計画に掲げた新規事業の中には、事業所に対するUDをどう理解していただくかという観点で、事業を実施していきたいと考えている。資料3 P.7のNo.15に「事業所へのUD啓発」という

事業がある。セミナーと記載しているが、セミナーを実施するだけでなく、もう少し事業所にアプローチできるように模索している。今、予算の要求時期であるため、詳細が明らかにできないが、新規事業に掲げ、来年度から実施していく予定で考えている。

#### (吉林委員)

事業所に対する意識の向上を大いに図ってほしい。前回の意識調査で、UDを取り入れない理由が、例えば、コストや研究費が高くなるとか、利益に繋がらないとか、業務上必要ないとか、驚くほどマイナスのイメージである。これをひっくり返すと、UDを取り入れることで全部プラスに変わっていくはずである。ところが、約半数の企業が意識調査でUDを取り入れる予定が無いと回答しており、非常に将来を危惧している。学校教育において、UDの意識はすごく浸透してきているが、その教育を受けた人たちが、企業に入った途端に自分の会社には関係ない、それよりも儲ける方法を別に考えるという感覚になってしまっていることを危惧する。企業側も相当な認識を持って意識向上を図ってほしいと感じている。

#### (事務局)

先週、橋本エンジニアリングという車いすを作っている会社による、企業のUD出前講座で、飯田小学校にパラリンピック車いすラグビーで活躍した池崎選手に来ていただき、新聞にも掲載された。橋本エンジニアリングは、今まで下請け体質であったのが、リーマンショックによって自社製品を開発し、車いすの軽量化に着目して業績を上げられた。小中学校で車いす体験を通して、会社の取り組みの話をしている。この話は、小中学生だけでなく、企業の方にも聞いてもらいたいと思う。今回の新聞記事は大きい宣伝効果もあったと思うが、企業の方を集めて出前講座を行い、実際にUDを取り入れたことによる業績があることを多くの企業にも知ってもらう機会を作りたい。

#### (諸井委員)

重点事業の「八幡駅周辺バリアフリー化」について、P.23の2年の期間のみで残りの3年は事業実施がないのか伺う。もう一つは、第一通り駅などのバリアフリー化を考えていかなければならないが、「鉄道駅のバリアフリー化」のような表記にして、令和4年から5年が八幡駅、6年から8年が中心市街地の駅のような表現で計画すれば、5年間の中でこのバリアフリー化の成果が出るかと思う。耐震工事とバリアフリー化は進めていかななくてはいけないと認識しているが、かなり大きな事業費が見込まれ、金融機関を含めて議論をしていか

ければいけない。表現を整え八幡駅に限定しない方向で考えてはどうかと思う。

#### (事務局)

「八幡駅周辺バリアフリー化」だが、資料に少し誤りがある。昨年度、基本構想を策定し、令和3年度から7年度まで5ヶ年の計画期間を定めている。駅の改修が令和5年度までであり、7年度までの計画の中で、周辺の点字ブロック化などの整備があり、事業としては8年度までである。この事業の方向性として、八幡駅周辺が良くなることで、その派生効果により、また次の効果が出てくる。現在5ヶ年の計画で、集中的に、特に重点事業と捉えており、5年経つ前に推進計画の見直しを行うとともに、毎年評価し、その時点で書けるものがあれば、事業の名称や事業内容を書き加えて行きたい。

#### (横田委員)

人の足というものが一番大事なことである。しっかり確保していかないと、いろいろなところへ出掛けられないし、家族や知り合いの手を煩わせなければいけないという、精神的な負担も出てくる。公共機関は、もっと市民や弱者に注力すべきである。浜松市は人口が増えたにも関わらず、便利な場所はない。予算をもっとうまく使い、精神的負担も少なくして出掛けられるようにとは思っていないように感じる。そこに目を向け改善してほしい。そうすることで、浜松の地位が上がると思う。

バスにも不便なところがあり、バス乗場が雨ざらしだったり、椅子も無かったりする。障がい者が困っているのであれば、手を差し伸べることで豊かになり、人の心が健康になっていくと思うので、事業は広げていくべきだと思う。

#### (事務局)

施設や設備のUD化は、ここ20年で非常に広まった。今まであった点と点を線で結び、街全体に広げていくことが本計画の主旨である。前回の審議会で、都田地区に音楽ホールをつくっても、そこへのアクセスのUD化をどう考えるのかと問題提起があった。現状は、施設が考えるのか、道路が考えるのか、交通事業者または公共交通を所管する部署が考えるのか、課題である。アクセスを含めたUD化が必要である。

蛇足だが、当課には、車いすの職員がいる。計画策定にも携わっているが、彼が住みよい街、いかに快適に過ごせるかという未来を想像しないと、この計画は成り立たない。それを常に考え、この計画の作業に取り組んでいることを紹介する。

### (田中委員)

小学校では、車いすの講話があり、講師が地域に出向いて話を聞くことは、キャリア教育であり、地域と関わるのはコミュニティスクールである。子供たちの中で、一貫性を持って繋がっているのかどうか考えさせられた。それら全てが繋がって、さらに未来にも繋がっていく教育が小中学校で実践出来るように働きかけていきたい。

企業の方でなかなか取り組めないという話があったが、20～30人規模の企業にとって、人を新たに雇うこと、障がい者の方が働きやすくする環境を整えることには、コストが関わってくるが、やれることもあるというところを企業規模でそれぞれに示していくのが良いと思う。

### (事務局)

小中学校とは連携しており、今後もUDの啓発事業、出前講座等も広がっていくようにお願いしたい。

小さな事業所は、UDの取り入れ難さもあると認識している。今までの計画にユニバーサル農業を掲載していなかった。以前から実施している事業であるが、農業の中で障害を持つ方を雇用している京丸園という、非常にモデルとなる事業所があり、企業の出前講座での講師を行っている。障害のある方を雇ったことですごく良かったこととして、障がい者の特性の中で一個一個のものを積む作業がすごく得意な方がいるということをお話された。そうしたところを事業所にも紹介していきたい。

### (倉橋委員)

雄踏町に、昭和45年頃できた団地が山の上の方にある。市街地から離れたところにあり、住民の平均年齢は、70歳から78歳位で、免許証を返納する人がとても多い。免許を返納してしまったので、なかなか動けない。子供たちもおらず、高齢化夫婦の場合は困り果てている。しかしながら、免許を返納しても、まだまだ働ける人はたくさんいるため、事業No.47のようなモデル事業があれば、ぜひ行っていただきたい。

### (事務局)

No.47のモデル事業は、庄内・春野地区だけで、その後実施しないというわけではなく、そこでの検証結果、実証しての有用性や課題が見つかり、必要なところが、例えば、それが雄踏地区であれば、事業を広げていくことになる。モデル地区の2地区で終わりとなるわけではないことをご理解いただきたい。

**(松井委員)**

事業 No. 47 の担当課が、デジタル・スマートシティ推進事業本部になっている理由はあるか。No. 46「地域バス・自主運行バスの運行」の担当は、交通政策課であり、No. 45「浜松自動運転やらまいかプロジェクト」の担当は産業振興課となっている。担当課の振り分けの理由は何か。

**(事務局)**

No. 46「自主運行バスと地域バス」は、以前から地域バスの運行の検討をしており、実際に運行している。現在 13 地域で路線バスを運行しており、交通政策課が所管しているということ。No. 47「共助型地域交通等推進モデル事業」は、デジタル・スマートシティ推進事業本部ができ、「デジタルファースト宣言」に基づいた諸事業を実施していく中で、地域交通の課題について、まずはデジタル・スマートシティ推進事業本部が先頭に立って進めていくものである。No. 45「自動運転やらまいかプロジェクト」は、平成 28 年度から産業振興課で始めている事業である。

デジタル・スマートシティ推進事業本部は、実際は、事業を実施するのではなく、どうやってデジタルの技術や I C T を取り込めるかを企画する部署である。モデルとして実施するにあたっては、先ずやるところがないと前に進まないで、最初の取り掛かりを担当するものである。

**(松井委員)**

自動運転を行うということか。

**(事務局)**

自動運転や、I C T 技術を使ってオンデマンドにするために、スマホを使って、ここで乗るとか、何時に乗るという予約システムを検討し、モデル事業を実施していくものである。

**(松井委員)**

デジタル的な取り組みが分かるように書いてほしい。

**(事務局)**

事業内容の記載をもう少し見直す。

**(松井委員)**

「自主運行バスと地域バス」の運行が、デジタルと関係するのか分かりにく

い。

また、UDは別に障がい者とか高齢者とか、特別な支援が必要な人たちのものではなくて、「誰もが」である。UD自体が、誰もがということは、あなたのためでもあるということを示し強調していただきたい。UDの中に、「誰もが、あなたも」ということが入っている考え方をしていかなないと、なかなか浸透していかないと感じた。

#### (飯野委員)

今回の推進事業には、外国人や多文化の事業が入っている。しかしながら、これからお母さんたちが社会に出て働くための事業や女性向けの事業が少ない。お母さんたちが、子育てにおいて、自分で教育するにはとても時間がかかる。子供たちに教えるときに、子供としてどういう世界、国、街をつくってほしいかの意見を入れていけたら、小さいときから、社会に対する考え方を身に付け、それを表現できる大人になっていくのではないか。

#### (事務局)

おそらく20年前にユニバーサルデザインと言ったときには、バリアフリーと何が違うのか、障がい者のための施策ではないのというところからスタートしたと思う。20年経ち、「誰でも、誰もが」というところが大分浸透してきたと思いつつ、まだ、やはり障がい者と高齢者の施策も多いのが現状である。子供、子育て、女性の観点からも、今回の計画は意識しており、例えば、資料3 P.12のNo.25「子育て情報発信事業」、No.29「女性就労支援事業」等を入れている。また、LGBT等に関する「パートナーシップ宣誓制度」を当課で実施しており、今回の計画から位置づけている。「誰でも、誰もが」に当たるような事業を意識して、今回の計画に位置づけたいと考えている。

#### (村松委員)

私たちは子供や子育てというところの事業をしている。事業方針としては、母親だけではなく、父、祖父、祖母も、地域の人に声を掛けたり、掛けられたりという関係を広げるという意味では、「誰もが」というところに通じるように、大きく目標を持って事業の展開を行っている。情報発信の手段を計画する中、使いやすい手段として、ホームページを開設し「見に来て」と待っているだけのところから、LINEだとかチャットボット等を使って外に連携が取れるような試みもしている。子供だってユニバーサルデザインの主体という意見はとても良いと思った。社会参加に向かうことは良い意見である。

### (飯野委員)

浜松でも、日本でも、大人向きの社会であると感じる。私たちは、もっと子供を見てほしい。また、子供たちの思いやりを育てていくために、子供が住みやすくすることが大切だと思う。子供が遊べる場所がもっとあると、子供にとって優しい街になると思う。

### (石塚委員)

このような、とても幅広いプランをまとめていくとこんな感じかと思った。観光関連のデジタルでの情報提供について、どうやってデジタルを使いながらやっていくかを試行錯誤している。一気に上手くいくわけではなく、繰り返しやって使い易いものにしていくというところを、少し許容していただけると助かる。

重点事業について、どんな考えで入れたのか説明してほしい。

### (事務局)

UDは一つの課で出来ることではなくて、全ての課に関わり、意識を持ってもらわないといけない。今回、推進事業に掲げた55の事業は25課から所管している。最初にまず、全庁的にUDに関する事業を全部考えて挙げていき、そこから絞って、ヒアリングを重ねながら25課まで絞った。この事業を位置づけ、今後5年間着実に進めていきたいという中でも、各推進目標の3本柱の中で一つずつ重点的に実施すべき事業を掲げている。

「UD教材開発」は、当課で取り組む事業である。昨年4月にコロナによる影響で休校になり、非常にUDの啓発は苦勞した。UDは、対面して体験をしていただくことで教育効果が高いと考えていたが、それができないという状況になり、どうしたらこれからUDを広げたり、考えてもらうことができるかというときに、デジタルの力を活用できないかと考えた。UDは、体験や対面によって効果が高まるが、「いつでも、どこでも」というところで、実は、UDとデジタルは親和性が高い。例えば、アクト通りでUD施設を見学してもらう事業を行っているが、全市的に申し込みを募集しても遠方の小学校が申し込んでくるかという、そこまで来るのに非常に距離があり、少ない状況である。これを自分が実際に歩く体験として、デジタルであるVR仮想現実やAR拡張現実を使って、そこでアバターが歩いていることを、あたかも自分の体験として感じることができるような教材ができないかと考えた。また、コロナの影響を少しでも軽減できるのではないかと考えた。今、専門学校生と一緒に共同開発に取り組んでいる。まず、小さいところから始めて徐々にということになるが、掲げさせていただいた。



「ICTを活用したコミュニケーション」は、UDトークの活用によるもので、タブレットを介して音声を文字化し、聴覚に障害がある方、難しい日本語が分かりにくい方、あるいは外国語の翻訳にも使っていただくこともできる。残念ながら、コロナの影響があり、そもそも市役所に相談や申請のために訪れる人の数が昨年度は非常に減り、この利用も少し減ってしまった。しかしながら、UDトークにいろいろな使い方があることが分かった。喋っている内容を全部文字化して、それがデータ化されるので、音声を録音し聞きながら文字起こしをする、今まで行っていた方法での議事録を作らなくてもよくなった。もう一つは、アクリル板で非常に話し難い、また、マスクで口元が見えず話し難いという状況を、このICTコミュニケーションの中で解決できないか、今後取り入れていきたい。ニュースで報道していたが、タブレットではなく、アクリル板自体に文字が表示されるものや、専用のマイクをアクリル板の下の隙間に置くと、お互いもっと聞きやすくなる機器があるようで、今後取り入れていく必要があるのではないかと考えている。

八幡駅に関しては、交通バリアフリー基本計画に位置づけた重点整備地区である浜松駅周辺に連続する地区の中で、まず、この地域のUD化を本格的に進めていきながら、さらに広げていきたいと考えている。

#### **(横田委員)**

言い忘れていたが、P. 6のNo. 13とNo. 14、「はままつUD週間」や「市民へのUD啓発」について、どんな内容かとても興味深い。ここが先ずあってからの事業所や学校のUD啓発であると思う。市民の理解を得るためにどのような計画を立てているのか、はっきりとした文章で計画に示してほしい。また、デジタルに印が付いていないが、デジタルの活用を視野に入れて行ってほしい。

#### **(事務局)**

UD週間に関して、11月1日からであり間もなく始まるため、ご案内させていただきます。

#### **(宮田会長)**

委員の建設的なご意見を可能な限り反映させていただくということで、承認する。

## **4 その他**

(1) 今後のスケジュールについて説明

## **5 閉会**